

「さんべの森たんけんたい」実施報告

竹 下 瑠 美*

A Report of Nature Experience Programs for Kids at Kitanohara in Mt. Sanbe

Rumi Takeshita

1. はじめに

「さんべの森たんけんたい」は平成27年より、期間展示「木のおもちゃ展」の関連イベントとして開始した。その後、幼児から参加できる自然体験イベントとして発展させ、年に1回の開催だったものを、令和2年度からは年に4回、季節を変えて計画・実施している。「子どもたちに自然の中で遊ぶ体験をしてほしい」という保護者と主催者側の思いが重なり、リピート率の高いイベントとなった。これまで実施してきたイベントの内容や参加者の様子などについて報告する。

2. イベント概要

(1) イベント内容

春～冬の季節ごとに実施し、その季節にしかできない体験を取り入れるようにしている。秋には落ち葉やドングリを使った遊び、冬には雪遊びなどを通じて、季節により自然の様子が変化することを体感してもらう意図である。食事は薪や炭を使って調理し、みんなで協力して作ったり、たき火を囲んで調理をし、野外ならではの体験となるようにしている。

表1にこれまでのイベント内容をまとめた。

表1 さんべの森たんけんたい イベント内容一覧

実施日	時 間	内 容	参加者数
H27.11.8	雨天中止	サヒメルのスタッフと一緒に三瓶の森を探検するイベント。木のおもちゃを持って、実際に生えている木を探しに行く。 ※期間展示「木のおもちゃ展」関連イベント	—
H28.11.13	14:00～16:00	木工クラフト、キャンプ場内散策、落ち葉のプール。 ※期間展示「木のおもちゃ展」関連イベント	6組18名
H30.10.28	10:00～15:00	散策、味噌汁＆おにぎり作り、落ち葉プール、自然のものを使ったクラフト、たき火で団らん。 ※期間展示「森のはくぶつかん」関連イベント	9組34名
H30.11.11	13:30～15:00	「樹木医先生と行く！さんべの森たんけんたい2」(さんべの森たんけんたい・番外編) 樹木医の講師と一緒に自然館周辺の林内を散策し、面白い形の木を探し、どうしてそうなったのか、樹木医の視点で解説してもらう。 ※期間展示「森のはくぶつかん」関連イベント	21名
R1.10.27	10:00～15:00	散策、ピザ窯でピザ作り、落ち葉プール、自然のものを使ったクラフト、たき火で団らん。	7組29名
R2.1.26	10:00～13:00	豚汁作り、火おこし、ネイチャービンゴ。家族毎に七輪を囲んでお昼ご飯。	9組33名
R2.6.14	雨天中止	キイチゴを摘んでジャム作り。家族毎に七輪やたき火でパンを焼いて、ジャムと一緒にお昼ご飯。	—
R2.10.25	9:30～14:00	ファイヤースターターを使った火おこし。パンを作つて家族毎にお昼ご飯。落ち葉プール、自然のものを使ったクラフト。	5組21名
R3.1.31	10:00～13:00	そり場を作つてそり遊び、雪遊び。家族毎に七輪を囲んでお昼ご飯。	7組27名
R3.4.18	雨天中止	おにぎり弁当を作つて春の北の原へお散歩。	—
R3.6.13	雨天中止	キイチゴを摘んでジャム作り、ピザ窯でパンを焼いて、ジャムと一緒にお昼ご飯。	—
R3.10.24	9:30～14:00	かまどでご飯炊き、おにぎり弁当を作つてどんぐりを探しながら北の原へお散歩。どんぐりでクラフト、どんぐり試食。	8組29名

* 島根県立三瓶自然館, 〒 694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

(2) 参加者(子ども)の年齢層

参加対象を「幼児を含む家族」としている。4~5歳の子をメインに、その兄弟姉妹と一緒に参加することが多い。中には2歳頃から毎年参加している家族もある。キャンセル回も含めた参加申込者の年齢層を図1に示す。

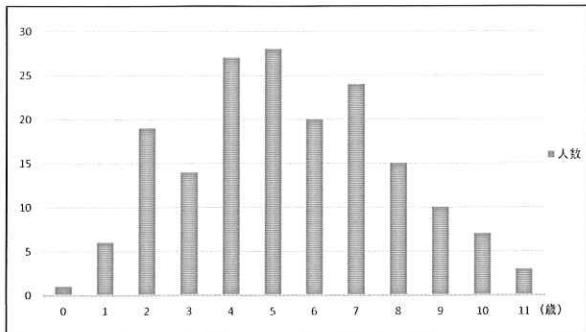


図1 年齢層

(3) イベントの様子



図2 落ち葉のプール

秋のたんけんたいでは、事前に落ち葉を集めておき「落ち葉のプール」を楽しんだ。

場内にはツタウルシやハゼノキなどもあるため、それらの葉が混ざらないように配慮している。



図3 どんぐりごま

子どもたちに一番人気の「どんぐりごま作り」。



図4 ファイヤースターを使った火おこし

ライターやマッチを使わず、火花で火を起こす。子どもも大人も本気で取り組む。



図5 たき火を囲んで

コロナ禍前は、参加者みんなでたき火を囲んで楽しんでいた。現在は七輪や焚き火台を配り、家族毎での活動にしている。



図6 みんなで協力して作ったそり場

冬のたんけんたい。積雪が十分でなかったため、屋根から落ちた雪をみんなで集めてそり場を造成。イベントの終わりまでずっとそりで遊ぶ子もいた。



図7 小さな子どもたちもお手伝い

食事作りなどは4歳以上の子がメインで行うが、小さな子どもたちも自分たちのできることをお手伝いしてくれる。

3. 大切にしていること

①見守り

子どもが自分の意思で行動する中で「気付き」を得ることを重視し、できるだけ「ダメ」と言わないよう正在する。自由な時間にはいくつかプログラムを用意するが、決まったことだけを行うのではなく、自由に選ぶことができるよう正在している。火おこしにチャレンジしたければひたすらやってもいいし、いろんなことを少しずつやってもいい。子どもたちがのびのびと遊んだり挑戦したりできる雰囲気作りを心がけている。

②家族でできること

「さんべの森たんけんたい」では、「イベントでしかできないこと」よりも、「家族でできること」を取り入れるように正在している。あまり大がかりにならず、本格的すぎず、「これなら今度のお休みに家族でやってみようか」となるような内容にすることで、イベントだけでなく、普段から自然とふれあったり、家族でのんびり過ごしたりする機会が増えることを期待してい

る。実際、家族でやってみましたという声も上がって正在いる。

③絵本・図鑑を取り入れる

イベントの最後には毎回絵本の読み聞かせを行っている(図8)。季節に沿ったテーマで、内容は物語だけでなく科学的な内容のものを用意するように正在している。イベント中に出会ったものや興味をもったものを、絵本や図鑑で探してみたり、逆に本の中で見た物を探しに行くこともできる。絵本や図鑑は、自然と関わるきっかけにも、まとめにも使えるアイテムであると考える。



図8 絵本の読み聞かせ

焼き芋を食べながら焼き芋の絵本を見る。

4. 参加者の声

イベントの終わりにはアンケートをとっている。参加者のイベントに対する満足度は高く、自然とふれあう機会を求めていることがうかがえる。全実施回を対象としたイベント内容満足度について図9に示す。

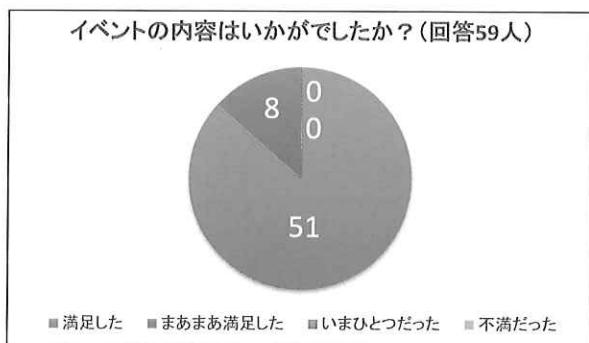


図9 イベント内容満足度

アンケートでは、イベント中に「心に残ったこと」「意見・感想」を記入してもらっているが、その中から参加者の声を抜粋し、以下に記す。

【子どもたちについて】

- ・普段テレビやゲームばかりだったので、薪割りをしたり、ドングリごまを作ったり、なかなか経験できないことをたくさん経験させてもらってありがとうございました。
- ・子どもはたくさんの落ち葉のプールを何度も何度も遊んでいるのが印象的でした。この機会に自然の恵みを活用して楽しむことができてよかったです。
- ・必要最小限の声かけのみで、子どもに自由に遊ばせていただきました。
- ・火おこしと調理のグループに分かれて作業しているうちに、バラバラに見えた子どもたちが協力したり、一緒に遊んだりして思い切り楽しんでいました。
- ・良いイベントに参加させていただきました。生きる力を育むイベントを実施していただくことを期待します。
- ・小さい子どもを連れて出かけるのは難しいかと思ったけれど、他のご家族の様子を見て、いろいろできそうだと思いました。



図10 ひろったまつぼっくり

【火おこし体験】

- ・初めての火おこし体験ができました。もっと簡単なのかと思っていましたが、なかなか…。やっとの思いでつけた火はとってもおしく感じました。
- ・最近はマッチで火をつけたり、火を身近に体験することが少ないので、子どもたちにもいい体験になったと思う。

- ・火おこしは住宅街では絶対にできないので、よい体験をさせていただきました。

【さんべの森たんけんたいでやってみたいこと】

- ・泊まりで実施
- ・木のぼり
- ・山登り
- ・子どもたちだけでたんけんたい
- ・子どもたちだけでグループを作って体験
- ・目標を設定した冒険、体験
- ・夜の森であそぶ

【参加者の声を受けて】

参加者の感想には、火おこし体験やたき火など、火に関することが多い。近年、オール電化が進んでいる上に、家の近くで火を起こすことも難しくなっており、「火」を見ることすら少なくなってきたことがうかがえる。また、野外で遊ぶ、自然とふれあうことさせたいものの、躊躇していたが、イベントで体験できてよかったですという声も多い。イベントだけで終わらせない、日頃から身近にある場所で体験できることなども伝えていきたい。

参加者からは、イベントでやってみたいことなどを記入してもらっているため、今後のイベント内容を決める際の参考にする。

5. おわりに

幼児を対象としたイベントでは、当初から時間配分や内容などについて苦慮してきたが、イベント中の様子を見ていると、2~3歳の小さな子どもたちについてもぐずる子はとても少ない印象を受ける。これは、子どもたちが思うまま自由に遊べている証拠ではないだろうか。保護者と一緒にのんびりとした時間を過ごし、「自然の中で遊ぶのは楽しい」という記憶を持ったまま成長してもらえたらと願う。今後もプログラムを検討しながら、子どもたちの力を存分に発揮できるイベントを企画していきたい。